

令和7年7月7日（月）、この縁起が良いなという気持ちにさせてくれた日に、第107回全国高校野球選手権長崎大会の開会式が行われました。

新聞やテレビでも報道されましたが、本校野球部の丸田昂輝主将が、選手宣誓を行いました。実は本番数日前の職員朝会において、教職員の前で一度リハーサルを行っていました。とは言え、大会関係者や大会に出場する県内の高校球児全員が見守る中で、選手宣誓をするプレッシャーはどれほどのものだったでしょうか。

ただし、組み合わせ抽選会で1番くじを引いた時の取材では、「絶対に自分が選手宣誓をしたい」と言っていたので、強運の持ち主ですね。

以下は、宣誓の言葉です。丸田主将の思いが詰まった言葉です。被爆80年という、長崎にとって節目のこの年にふさわしい、素晴らしい宣誓です。

宣誓

高校野球には夢がある。

白球をひたすらに追いかけて、自分を信じ、仲間を信じて、努力し続けてきたものだけが辿り着ける、聖地への切符を手にするために、今、私たちはここに立っています。

80年前の8月9日、ここ長崎で、前日まで共に過ごしてきた仲間が突然失われ、汗を流してきたグラウンドさえも、姿を消しました。そんなあの日から80年経った今日、このグラウンドに立っていることは当たり前ではありません。

だからこそ、今、この場所で仲間と野球ができることに感謝しています。

私たちは野球を愛しています。そして、100年先も高校野球が愛されるように、これからも高校球児が青春を注ぎ込めるように、全力を尽くし、最後まで笑顔で戦い抜くことを誓います。

